

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
医療的ケア I Medical care I		2年	前期 1 / 2	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の2年生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
こころとからだのしくみ I、II				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
生活支援技術VI				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
和田晴美	福祉棟 2F	月・火・水・木の9時から16時（授業時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
2011年の社会福祉士及び介護福祉士法の改正により介護福祉士の定義規定が見直され、介護福祉士の業務に喀痰吸引と経管栄養が追加された。この改正に伴い、養成課程のカリキュラムに、領域「医療的ケア」が新設されるに至った。この授業では法律改正の趣旨・内容を踏まえ、医療提供の基本的考え方、リスクマネジメントを基盤とした安全な介護を提供するための基本的な知識の習得を目指す。				
授業の目標				
①介護福祉士が「医療的ケア」を、実施することになった背景について、説明できるようにする。 ②感染の意味と予防について、説明できるようにする。 ③バイタルサインの意味するところが分かり、観察項目を列挙できるようにする。 ④心肺蘇生法を中心とした緊急時への対応方法を、説明できるようにする。				
授業の方法				
1年次の「介護の基本」や「こころとからだのしくみ」の学びをもとに、介護職における医療的ケアの位置づけを理解し、医療的ケアの実施に必要な、感染予防、バイタルサインを中心とした観察、関連法規、リスクマネジメントに関して学ぶ。講義中心の科目であるが、バイタルサインの測定や感染予防に関しては演習を行う。				
学習の成果（学習成果）				
介護の場で提供される医療的ケア（喀痰吸引、経管栄養）を、安全かつ適切に行うための基礎的知識を習得し、バイタルサイン測定や感染予防に関する基礎的技術を身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって授業概要、授業の目標と学習の成果、評価方法等の説明） 医療的ケアとは 人間と社会 個人の尊厳と自立			
第2回目	人間と社会 医療の倫理 利用者や家族の気持ちの理解			
第3回目	保健医療制度とチーム医療① 保健医療に関する制度			
第4回目	保健医療制度とチーム医療② 医行為に関する法律 チーム医療と介護職員との連携			
第5回目	安全な療養生活① 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施			
第6回目	安全な療養生活② 救急蘇生法			

第7回目	安全な療養生活③ 救急蘇生法の実際
第8回目	清潔保持と感染予防① 感染予防 職員の感染予防 (小テスト①)
第9回目	清潔保持と感染予防② 【演習】手洗い、ガウンテクニック、手袋の装着、滅菌物の取り扱い
第10回目	清潔保持と感染予防③ 療養環境の清潔、消毒法 滅菌と消毒
第11回目	清潔保持と感染予防④ <感染予防に関するレポート課題 第13回目に提出>
第12回目	健康状態の把握① 身体・精神の健康 健康状態を知る項目
第13回目	健康状態の把握② 急変状態について
第14回目	健康状態の把握③ 【演習】バイタルサイン測定
第15回目	介護現場における医療的ケア 【視聴覚教材 医療的ケア】 (小テスト②)

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	以下の視点で評価する。授業の準備が整い、講義は集中して必要なことをノートに取り、疑問点は質問して解決できること。ディスカッションでは他者の意見を傾聴し、自ら積極的に発言して学びを深められること。
レポート	20%	感染予防に関するレポートを提示し、以下の視点で評価する。①感染予防についての自分の意見が述べられていること。②手洗いや滅菌操作を実施した際の感想と学びを記載していること。
調査報告書		
小テスト	60%	授業の振り返り、知識習得の確認のため第8回目、15回目に小テストを行い解説をする。問題は文章の正誤を問う問題や語群からの選択問題、穴埋め問題等
試験		
発表内容 (態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア 中央法規出版

履修上の留意点・ルール

講義・演習・グループディスカッションともに積極的に参加し、学びを共有してほしい。演習時は身だしなみを整えること。また、自己練習をし、技術の向上に努めること。教室での飲食、机上への飲み物の放置も禁ずる。やむを得ず欠席する場合は、必ずその部分の学習を補い、届け出は速やかに提出すること。この授業は前期前半のクォーター科目である。週2回授業があるので、注意すること。